

東京大学学生の体験学習サポート

◇実施日 8月30日(水) 雨

◇参加者 沖崎吉信、濱野兼吉、湯川一郎、中前偉、阪口雄二、大森洋、大江加予子、畑林清子、生熊千満子、梶野照雄、西克、高階美根子 12名

東京大学(職員)

秋山聰(副学長、文学部長教授)、太田泉フロランス(大学院人文社会研究助教)、笹田敬頭(社会連携部渉外課課長)、斉藤智(社会連携部渉外課) 4名

東京大学(学生)

出倉正啓(4年理学部)、荒木英佳(4年文学部)、福里拓海(4年工学部)、藤田敦也(2年理科一類)、六川雅英(修士1年総合文化研究)、渡辺恵文(3年理学部)、関守太心(2年理科二類)、羽生田望美(2年文化三類)、佐橋真琴(2年文化三類)、鈴木元太(4年工学部) 10名

新宮市役所文化振興課

南由起、小林高太、前地清光

3名

熊野学研究会

田原敬治(理学博士南紀高等学校教諭)



雨が降り出した



毛布も荷揚げ



行仙宿に着く

ひと月ほど前だったか、新宮市役所の文化振興課南課長補佐から電話があり「東京大学から職員、学生が15名ほど体験学習のため来新する。8月30日に行仙宿で一日面倒を見て頂けないだろうか？」との内容だった。東京大学と言うこともあるが、頭に浮かんだのは我々が管理する山小屋は修験者や登山者が利用するだけではなく、子供たちの学習の場や企業の研修の場として広く利用してもらいたい、と玉岡さんが書かれていることだ。このことが常に頭にあるので、即引き受けさせて頂いた。

後日送られてきた計画書では、その目的として「学生が熊野参詣道や大峯奥駈道の世界文化遺産(紀伊山地の霊場と参詣道)において歴史、伝統文化、自然などを体験的に学び、地域の人々と交流することによって視野を広げることを目的とします。また地域が抱える諸課題について考察し、地域に貢献する可能性を探ります。」とある。

体験学習の概要が判ったので行仙宿でのメニューを考え、女性陣に味噌汁やコーヒーなどをお願いし、好天を祈って当日を迎えるだけとなった。しかし天気予報が芳しくなく、30日だけに雨マークが付いている。



東大生到着



お堂で勤行



薪割りに挑む

準備だけは何とか整えた中、二日前の28日に湯川君が四ノ川林道の整備に出かけた帰路、バス会社の社員が道路の下見に来ているのに出会い、色々注文があったらしく翌29日に沖崎、湯川と市職員が5名で道路整備に向かうことになった。(第2251回参照)

前日には天気予報が曇り変わったので、なんとか降らずに済みそうだったと思っていたが、朝起きると雨こそ降っていないが今にも降り出しそうなどんよりとした雲が空一面を覆っていた。

午前7時過ぎに沖崎宅を出発。沖崎車は湯川君が運転し女性3名も乗り込み行仙宿に先行してもらおう。湯川車に男4人が乗りバス先導のためホテルグランへ向かう。秋山団長に挨拶し、程なくバスが到

着。新宮市の10人乗りワンボックス車が加わり3台で出発した。宮井大橋を渡り奥瀬道路経由、途中大沼の道の駅でトイレ休憩し不動トンネルを越えて浦向よりR425に入る。

昨日5人で整備したこともあり、ゆつくりではあるが止まることなく進行する。なりよりも白谷トンネルの工事で対向車が無い事が安心材料だ。四ノ川林道の掘れた場所も土嚢袋35袋位を入れたので、バスは登山口手前の広場まで入ることが出来た。

いつの間にか雨が降り出していった。本降りとは行かないが止む気配はない。登山口に集まって頂き、沖崎より本日の予定、注意事項、荷揚げ品などを説明し登り始める。

皆さん若く登るスピードも速い。ついて行くのがやっとで最後尾を歩きモノレール終点に着く。

20日に台風通過後の点検に行った際、行仙岳北側の段差補修用に半割丸太を10本荷揚げし、チェーンソーで半分に切り20本を準備していた。この半割丸太の荷揚げを体験していただく事を今日のメニューに加えていたが、皆さんは積極的に応じてくださる。中には2本を肩にする学生もいて、用意していた20本はあつという間になくなってしまった。

モノレール終点からも最後尾を歩いて行仙宿に着く。学生諸君は5分以上早く着いたようだ。

お堂前に全員集まって頂き、中前君の導師で今日の作業安全と世界平和を祈る。中前君が吹く法螺貝の音も学生諸君には初めての事だろう。この後水場に降りる予定だったが、雨が続いて足元が滑りやすくなっているためリスク回避のため中止した。前回(2017年9月1日)水場を経験されている秋山先生も今日のコンディション

で水場へ降りることを心配されていたので水場はカットし、薪割りの体験をして頂く。現在の生活で薪を燃料として使うことはまずないので、学生諸君にとつては初めてで最後の経験になるかもしれない。女性も含めて皆積極的に挑戦される。梶野君がチェーンソーを持ちだして丸太の玉切りを始めた。学生の数人がチェーンソーもち玉切りに挑戦、最初にチェーンソーを持ったのは女子学生だった。ヒヤヒヤしながら見ていたが、しつかり切れていたので少し安心した。



昼食



講話



本日の参加者

12時近くなり撤収して昼食にする。女性陣が作ってくれた味噌汁が好評で、お替わりをする学生が続出だった。午後からは雨脚が強くなり、予定していた行仙岳まで奥駈道を歩くことを中止し、小屋内で当てるふの紹介、日ごろの活動や大峯奥駈道についてなどの講話をさせて頂いた。普段の講義とは違う話なので学生諸君は熱心に聞いており、質問も数多くありよく理解され

ていたようだ。

降雨のため予定していたメニューの一部しか実施出来なかった。多少の消化不良感があったと思うが、楽しかったとの言葉を頂いた。下山準備の後、午後3時前小屋を後にした。



下山開始



下山



バスに着く

お礼にたくさんの方のTシャツを頂いた。翌日新宮市役所から電話があり「皆さんとても喜んでいました。有難うございました。」ということだった。
(記：沖崎)

行動タイム

08:45 補給路登山口→10:05 行仙宿→10:50 東大生到着→11:30 マキ割り→11:55 昼食→12:50 講話→14:50 下山開始→15:50 バスに着く